1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900087		
法人名	有限会社 ケアサービス九州		
事業所名	グループホーム ふぁみりー那珂		
所在地	福岡市博多区那珂3丁目14番6号		
自己評価作成日	令和6年9月29日	評価結果確定日	令和6年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1F	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和6年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

H27年より小学4年生を対象に子供向けの認知症サポーター養成講座、福祉体験の受け入れや特別支援学級との交流の場を設けています。コロナ禍になってからもZOOMにて小学生と入居者様の交流は続けています。自治会の参加、公民館主催のなかよし喫茶にも参加し、自治会の廃品回収・町内清掃・入居者様と一緒に、町内パトロールをしながらゴミ拾いをしています。この活動を通じて、地域の住民との交流を深めています。働き方としては子連れ出勤を取り入れ、入居者様と子供がオセロをしたりトランプをしたりして楽しませています。外国人の受け入れにも研修の充実に加え、OJTやOFF-JTを効果的に活用しeラーニングによる新人研修や外部研修をし、職員の育成に積極的に取り組んでいます。コロナ感染拡大予防の為に中止に致しました行事なども、小規模ではありますが少しずつ再開しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふぁみりー那珂」は隣に公民館、徒歩圏に小学校もある住宅街の一角にある小規模多機能と併設型の2ユニットグループホームである。法人は中央区にもグループホームを1か所運営している。代表が地域との交流に力をいれており、小学校との交流も10年以上に及ぶ。日ごろも利用者それぞれの意思を尊重しつつ、運動を取り入れたり、一人で過ごしたりと自由に過ごしてもらっている。家族との外出も希望があれば積極的に行う。コロナ禍で共同イベントなどはいったん中止していたが、地域交流の再開や、もちつきなども関係者をお招きして開催予定としている。運営推進会議のzoom開催など、柔軟な運営をしており参加者拡大につながっている。地域福祉の中心となる活動を長く続けており、今後も地域を支える活動が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングにおいて参加者全員で理念と基本方針の唱和を行っている。またミーティングにおける勉強会で理念でうたっている尊厳や心のふれあいとはどのようなものか考える機会を作り、理念の理解に努めている。	代表が作成した開設当初からの理念があり、全従業員にプリントしたものを配布している。毎月のミーティングの中で、ケアが理念に沿ったものになっているかどうか見直したり、理念そのものについて考える機会も持っている。以前は入職時に代表からのオリエンテーションがあったが今はされていない。	入社時のオリエンテーションなどで、代表以外でも理念についての研修ができるように引き継いだり、継続的にできる仕組みを考えてもよいのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルスの影響で自粛しているが、以前は地域のイベントや公民館で行われている体操教室などに参加していた。今年は小学生からメッセージをもらいそれに返事を書いて渡した。小学生との交流や公民館での交流などが行えないか、コロナの状況を見ながら検討中。	町内会にも加入しており、地域清掃や廃品回収、運動会などに職員と利用者が一緒になって参加もしている。日々の防犯パトロールの協力などもしており、地域の一員として日常的な交流がある。以前は併設小規模多機能でケアカフェとして相談会も開催して地域の方からの介護相談も受けていた。認知症サポーター養成講座にも以前から講師派遣として協力している。	コロナ禍で控えていた、相互の地域交流についても徐々に再開して、立ち寄りやすい施設になるような取り組みがなされていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を公民館にて開催し、認知症への理解を広げると共に認知症の方が安心して暮らせる街づくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1度Zoomを併用して開催している。以前はコロナの関係でZoomで参加されていた方も直に参加して下さるようになり、ご家族・自治会長・社会福祉協議会・包括センター・市の職員・公民館長などから幅広くご意見や他の取り組み状況をお聞きし、サービス向上に生かすようにしている。	運営推進会議と同日で防災訓練などをすることもある。Zoom併用とすることで、遠方の家族が参加することも可能になり、最近では広島のご家族参加があった。会議では勉強会報告、ヒヤリハット報告もされており、有識者の参加など顔ぶれも幅広く、参加者も積極的に意見や質問を出されている。議事録は前回分を参加案内時に郵送で送付報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福岡市の担当者と共に「きんしゃい博多」を立ち上げ、定期的に情報交換を行っている。それにより連絡・連携を取り合い協力関係を築いている。	代表が市と協力して、地域事業者や社協等も参加する情報交換会を2カ月に1回程度開催している。運営推進会議にも市の担当者を招いており参加することもある。サポーター養成講座の協力などもあり、代表者が市との関係は深く、何かあった際も代表を通して連絡することが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング、及び2カ月に1度の運営推進会議において身体拘束について議題にあげて意見交換を行い、入居者様が気持ちよく過ごしてもらうために何ができるのか話し合っている。スピーチロックについてもどんな声掛けが出来るのか勉強会を行っている。	運営推進会議の際に身体拘束廃止委員会も開催し、外部の方とも情報共有している。身体拘束についての勉強会も毎年定期的に開催し、機会があれば外部研修にも参加する。原則的に拘束をしない方針で事例もなかった。日中は玄関施錠もしておらず離脱事故もあったが、以降はロックや見守りの強化によって対応している。	

R6.10自己・外部評価表(事業所名グループホームふあみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング、及び2か月に1度の運営推進会議において虐待防止について議題にあげて意見交換を行っている。また入浴や着替えの際に気になるアザがないかチェックすると同時に、どのようなケアをすべきだったのか話し合うようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する勉強会を行った。施設内にも成年後見制度を活用している入居者様が3名おられる。運営推進会議に定期的に参加して下さる司法書士の先生もおられ、情報共有を密にしている。	入居後に制度利用開始される方もおり、必要があれば事業所側から情報提供や申請のお手伝いなどもしている。研修会も毎年開催し、説明用の資料やパンフレットの準備などもされている。後見人に専門家の方もおり、研修会などで協力得ることもある。実際の利用を通して、職員も基本的な制度理解をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は代表・施設長によって行い、契約書を元にすべての項目について説明を行い、不明な点がないか確認を行っている。また改定時も書面にて説明を行い、同意書の提出をお願いしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見BOXを置いているが、ご意見やご要望がある場合は直接施設に電話してこられることが多い。又面会の際にもご意見・ご要望がないかお尋ねするようにしている。施設長が不在の場合は申送りを行い、基本的に施設長が対応するようにしている。	電話や面会で意見をいただくほか、運営推進会議の案内時に意見や要望を書く欄を設けて意見聴取をして議題づくりにつなげている。直近では外国人雇用についての意見があり説明の場を作った。コロナ前は夏祭りに家族会も開いていた。しばらく休止していたが餅つきの際に再開を検討中である。運営推進会議の案内時に行事報告もし、個別のおたよりも隔月で担当者が手書きで送っている。	意見箱の意見聴取として、事前に意見用紙を配布して、時期を決めて回収し、意見箱の設置場所を見直すなどで積極的な活用につなげてほしいのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表・施設長はミーティングに参加し、現場職員が意見や提案を出し合う機会を設けている。全体で話していく件については、個別に意見を聞いて、運営に反映させるようにしている。また代表・施設長たちでグループLINEを作成し、意見を共有するようにしている。	ユニットごとに毎月のミーティングがある。パート職員も含め原則全員参加で実施する。事前に会議の議題について意見聴取があり、理念の確認の後、カンファレンス、ケアの見直しなどについて話し合われている。個別面談も不定期であるが、日ごろから相談もしやすい雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は個々の職員の実績や努力、勤務状況を代表に伝えて代表が実績把握できるように努めている。また個人目標を定めると同時に、外部研修の機会を与えることによって、スキルアップを図れる環境づくりを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用する際には、年齢・性別・経歴を元に判断せず全ての方を面接し、どの程度やる気があるかに注目するようにしている。実際に幅広い年齢層、及び海外の方も受け入れており、それぞれが自覚と自信を持って働ける環境づくりに苦心している。休みの希望に関しても可能な限り添うことで、それらの時間にそれぞれの信念に基づいて行動できるよう配慮している。	男女比は1:9程度で、年齢層は20~70までと幅広いが40代が多い。外国人雇用にあたっては受け入れについて職員の学習を行い、フォローやコミュニケーションについても気を配って、職員同士の相互協力体制も作られている。研修機会も、外部研修に年に1回は行くようにしており参加費も支給され勤務として参加できる。能力や特技をレク、料理などに活かしている。子連れ出勤も可能で育児休暇などもとりやすい。休憩と勤務のメリハリもあり一時外出も可能である。	

R6.10自己・外部評価表(事業所名グループホームふぁみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内勉強会において人権学習を行っている。今年度は尊厳について具体例を挙げて勉強した。またその内容を運営推進会議の際にも取り上げ、他の視点からの意面も聞くようにしている。毎月のミーティングにおいても、慣れに基づくケアによって尊厳を軽視していないか振り返るようにしている。	年間計画の中で研修会を定期的に行っている。今年度は人権学習・尊厳をテーマとして開催し、介護における尊厳、個人の尊厳などについて取り上げて研修報告もされている。外部研修も機会があれば参加されている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ミーティング時に行われる勉強会や、ミーティングにおける発言を観察してスタッフの力量を測っている。また他の職員から見て問題に感じる点がないか、それぞれに聞くこともある。OFF-JTの情報を集め提示・提案し、スキルの向上にも取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	6月に(株)ケアリングのスタッフ2人が来苑しそれぞれの施設の取り組み方法についての意見交換を行った。GH協議会(県)の役員も引き受け、協議活動を通し意見交換を行っている。地域の事業所ネットワーク(きんしゃい博多)でも活発な意見交換がされている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人及びご家族とよく話し、これまでの生活にいかにか近い環境を作り出せるか、どのようにすれば安心かつ安全に生活して頂けるかを模索し、スタッフ間で細かに情報を共有するようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階は特にご家族との連絡を密にとるようにし、これまでの状況と対処方法をお聞きしながら、どの様にケアすることができるか共に考えるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は特にご家族との連絡を密にし、どのような趣味や生活習慣があるか、どのようなことを好み嫌われているかをお聞きして、環境や信頼関係を構築するように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフには常々、自分たちは管理する立場ではなくサポートする立場にある事を伝えている。一人一人の役割や得意なことを理解し、その日の状況を見極めながら笑い合える関係を築ける様に努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とも出来る限り連絡を取るようにしている。ふぁみりー通信での近況報告や電話での報告、ご本人との面会や電話での会話、ビデオ通話の活用などを活用している。		

R6.10自己・外部評価表(事業所名グループホームふあみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響による筋力の低下、及び猛暑の影響などで外に出る機会はめっきり減っている。その一方でご家族や親族、時にはご友人が面会に来られる機会が増えた。その時に写真を撮り、後で写真を見ながら話しかけることで関係維持に努めている。	コロナ禍でも、時間制限を設けた面会を許可したり、リモートによる面会などでフォローをしていた。家族以外でも事前に関係を把握したうえで受け入れを行っている。状況が可能であれば一時帰宅をしたり、冠婚葬祭での外出など家族の協力も得ながら支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごされる時の位置関係や、声掛けの方法を工夫するように努めている。歩ける方は見守りの元、自由に動いて頂くことで様々な方と関わり合うことができています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談して頂くことができる事をお伝えしている。当施設から自宅近くの施設に移られた方には、時々様子を伺う連絡をして、関係の維持を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティングにおいて、全ての利用者に関して時間をとり、どんなケアに取り組んでいるか。どんな方法が良かったのか。逆にどんなケアが本人の意向に添わないものだったか話し合うようにしている。また、ご本人の意向や要望に気づくことがあったら、その都度スタッフで情報を共有している。	基本情報は主にケアマネが担当して作成する。入居後の日々の状態等については利用者ごとに担当者を定めて、担当から毎月のミーティングなどで報告される。意思疎通の難しい方には反応や表情の変化から推測し意向の把握につなげる。以前はセンター方式を使うこともあったが現在ではしていない。	基本情報やフェイスシートの更新のタイミングとして、介護認定期間に合わせてたり、年度更新を行い、変更がない場合でも更新日を記入してはどうだろうか。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様及びご家族様から聞き取りを行い、何らかのサービスを受けておられた際にはサービス提供事業所に連絡を取りサービス内容を把握するようにしている。また入居後にもご本人様と積極的に会話をし、情報を収集し共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活習慣、日々の状態変化を観察し、一律のケアではなく、一人一人に合わせたケアに努めている。また毎月のミーティングにおいて気づいた点を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に希望をお聞きし、その希望にどのように添えるかを毎月のミーティングにおいて話し合うようにしている。ご利用者様の担当を設けて、特に担当者がご利用者様の状況を観察し、必要と思われるケアの方法についてミーティングの際に提案している。	利用者ごとに担当者を1:1で割り当て、状態観察、居室管理、プランの素案提案などを担い、プラン作成はケアマネが行っている。プランは3カ月ないし随時変化があった際に見直し、定期ミーティング時に行うことが多い。家族からは面会時などに意向を伺っている。プラン目標の実施も、毎日のモニタリングの中で全職員と共有を図っている。	

R6.10自己・外部評価表(事業所名グループホームふあみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に毎日の状況、介護記録に特変の状況を記録している。それとは別に口頭での送りや送りノートを用いて毎日の気づきや工夫をスタッフ間で共有するようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の間にテレビ電話などでの面会方法が施設、ご家族様それぞれに根付いたため、遠方におられるご家族とはテレビ電話を活用した面会も随時行っている。電話での声だけの会話よりも顔を見ながらの会話により、ご本人様の満足も増していると感じている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で自粛していた地域との関りを少しずつ増やしている。10月にキッズサポート養成講座を小学校で開催し、その後に小学生たちに施設を訪問してもらい交流を持つことを計画している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の基本的な提携医はいるが、入所時にご家族様の要望をお聞きしてかかりつけ医を選定している。また定期受診以外に異変があった際にはかかりつけ医に連絡の上、専門病院を受診し医療連携に努めている。	基本的には入居時に、訪問診療ができる提携医に切り替えてもらっているが、希望があれば従来のかかりつけ医も継続できる。外部受診は原則的に家族に介助してもらいが難しい場合は通院介助も行う。毎週の訪問看護による健康管理のほか、看護資格のある職員もおり日々の状態を把握している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護と連携し、ご利用者様の変化に対して適切に対応できるようにしている。また介護職のスタッフが出勤した際には、双方が気付いた点を共有し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前後にかかりつけ医からの診療情報提供書や介護サマリーなどで情報のやり取りをしている。入院後も定期的に病院関係者やご家族と連絡を取り、早期の退院のメリットを説明し、可能な限り早期退院できるよう促している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に緊急時対応の事前確認書をご家族様に提示し、要望をお聞きし同意書を作成している。また重度化された方については早期にたかかりつけ医から状態の説明を行い、急変時対応の事前確認書を再度ご家族に提示し同意を得ている。そのようにしてご家族様に納得して頂ける支援に心がけている。	看取り指針を定めており、本人家族の希望と状況が許せばできる限りの支援を行う。最期をここで望まれる方も多く、これまでも数多くの方を看取ってきた。家族が泊まることもできる。ターミナルケアについての研修も定期的に行っている。提携医、訪問看護との連携もとれており、ご家族にも安心していただき感謝されている。	

R6.10自己・外部評価表(事業所名グループホームふあみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成、勉強会等での職員への周知及び住子の経験を教え冷静に対応、判断、行動できる様努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、マニュアル作成及び説明をし、実践できる様つとめている。コロナ感染予防も5類になってからは、リモートと対面、両方で運営推進会議を開催しており、地域への公開はできていないが、水害の際は自治会が駆けつけて下さる取り決めはできている。	年2回の訓練でそれぞれ、日中、夜間想定で行っている。毎回、運営推進会議の際に同日で防災訓練を行い、地域の方に参加してもらっている。自治会や地域住民の方との協力体制構築も進め、緊急連絡網にも代表が名を連ねている。備蓄物としてカセットコンロ、水、食料品が3日分程度準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あだ名で呼ばない、部屋に入るときには許可を得る等、常に入居者様の気持ちを考え、尊厳と敬う気持ちを持って声かけを行う様に努めている。言葉使いのみならず、表情や態度にも気を配るように努めている。	接遇やマナーの研修を定期的に行っているほか、日常的にも管理者等が言葉遣いなどについての指導をしている。基本的な礼儀をわきまえつつ、親しみをもってもらえるような働きかけにも気を配っている。写真等の利用についても事前に書面で同意を得た上でを行い、個人情報かわからないようにミーティング時にも固有名詞を使わないように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の好みを調査したり、食事や生活お中で何を希望されているのかを察し、ご本人様が意思決定して頂ける様努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の様子や体調に配慮し、出来る限り、ご本人様のペースで生活出来るように、距離感を大切にするように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、ご本人様に選択して頂きご本人様が望む身だしなみをして頂く。さり気ない声かけで整容に気を配って頂ける様に努める。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを理解し、食材や適切な量の配分に努めている。 *コロナ感染予防で、食事中はマスクを外す為パーティションを取り付け入居者様同士はお話しながらいる。召し上がって下膳、洗い物、テーブル拭きなど、一緒に出来るものはして頂いている。	食材は地域の食料品店から配達があり、メニューはその日に担当職員が決めて調理も内部で行う。利用者も買い物や洗い物、配下膳などできることを手伝ってもらう。調理レクとして一緒に食事作りを楽しむこともある。以前は職員も一緒に食事していたが、コロナ以降は別でとるようになった。食事の感想やメニューについての要望なども日ごろのやり取りで聞き取って反映させている。以前は月一で外食レクもされていたので、今後再開も企画している。	

R6.10自己・外部評価表(事業所名グループホームふあみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は入居者様それぞれに合った量を提供している。食べ物の好き嫌いも入居者様に合わせ嫌いな物の時は別のおかずを提供するよう努めている。水分補給は1日1リットル以上は摂れる様に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で出来るかたは声かけ見守り、介助の必要な方お手伝いをし、口腔ケアしている。舌ブラシで下洗いも声かけている。義歯の方は就寝前にポリドントにて洗浄している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄表を作成している。可能な限り、トイレでの自然排泄ができるよう、時間を見ながら個々の特性をスタッフ同士共有しながら声かけ誘導している。	利用者ごとの個別記録の中で24時間分の排泄チェック欄があり記録している。トイレ誘導のタイミングも朝の申し送りなどで職員から意見を出し合って改善につなげている。回数や汚染頻度などをこまめに確認、改善することでパット使用量の減少などにも効果が出ている。おむつ交換や排泄介助の際もプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、野菜などを摂取して頂き、水分補給の声かけにも努めている。排泄のパターンを把握し、トイレ誘導している。こまめに水分を提供し、便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様それぞれの希望に沿う様にしている。入浴剤を入れてリラックスして頂いたり、会話等で楽しく入浴して頂ける様努めている。『お昼から入りたくない』と言われる入居者様には日よけシートを窓に貼り、気分よく入浴して頂ける様工夫している。	二方向があいた位置に浴槽が設置され手すり等で安全に入浴される。おむね週2～3回、午前～午後で提供している。順番や時間帯などもできる限り対応し、夜の入浴を希望される方に対応して浴室を暗めにしたり、入りやすい雰囲気づくりを工夫している。皮膚観察など健康管理の場としても役立てている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はお昼寝やリビングにて休憩、ソファにてウトウトされている。夜勤者は入居者様がゆっくり寝るように静かに巡視を行う。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を把握し、名前、日付、個数、朝、昼、夕、眠前薬を確認しダブルチェックを行っている。与薬時は日付・名前を本人の前で声出し確認をし誤薬予防につとめている。問題があった際には医師・薬剤師へ連絡し指示を仰ぐ。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好きな食べ物、食べたい物等を聞き、メニューに取り入れている。入居社様に合った役割、洗濯物干し、たたみ、食器洗い、新聞紙たたみ等それぞれ役割を持って頂き自信をもって頂き、楽しく生活して頂ける様務めている。		

R6.10自己・外部評価表(事業所名グループホームふぁみりー那珂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、長時間の外出や外食は、極力控えている。但し短時間の散歩や買い物は感染予防を徹底している。又、ゴミ捨てや施設周辺の掃除を通し、地域の方との挨拶、下校時の生徒さんへの声掛けなどで地域交流を図っている。	外出行事として季節ごとの花見などに行っている。個別支援としてドライブや買い物などに月1、2回お連れすることもある。日常的にも近隣の公園、公民館、小学校などに散歩で行っている。車いすの方や外出意欲の乏しい方にも日光浴などで外気に触れる機会を作っている。	コロナの前は外出頻度が高かったが、外出控えが続いていたので、徐々に外出の機会を増やしていきたいと考えている。家族の協力なども得つつ実現に期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に許可を頂いた上、入居者様個人で必要な物がある際、買い物に同行して頂いている。会計時にお小遣いを所持し、支払いをしていただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話を希望された際、居室などでゆっくりお話しができる時間や環境を作るよう努めている。又、手紙やはがきを出され、ご家族と交流を図られる入居者様もいらっしゃる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、清潔を保つよう心がけると共に、写真や季節の飾りつけを利用者様と一緒に作り、楽しい時間を過ごせるよう努めている。写真をご覧になり思い出を振り返ったり、季節の飾り付けは、入居者様にも参加して頂き、季節を感じるような交流を行っている。トイレでは排泄臭を防ぐ為、新聞紙やビニール袋に包み処分している。入居者様の体感に合わせた空調設定を行い、気候等に合わせ、加湿器・除湿器を使用し快適な環境作りに努めている。	1,2Fに各ユニットが配置され、概ね造りは共通である。リビング・ダイニングを中心に居室があり、カウンターキッチンからは料理の様子もうかがえ生活感がある。季節感が感じられる飾りつけや掲示を行っている。隣接の小規模多機能との間に中庭があり、テラスBBQをしたり家庭菜園での収穫も楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は関係性を重視し配置している。独りを好まれる方、にぎやかに過ごしたい方、入居者様一人一人が安心して過ごして頂けるようソファや机、テレビの配置を考え設置している。その日により、塗り絵をされたり、音楽を聞いたり、共有空間の中でも個々が好きな事をして過ごせるように努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参した家具やインテリア又、ご家族からプレゼントされた家族写真を飾り『私の部屋』と安心できる環境作りを行っている。又、気が合う入居者様同士が行き来し『いらっしやい』とお招きできる雰囲気作りも大切にしている。	居室は洋室、和室の2タイプがある。大きさは共通だが、向きによって窓の大きさは異なる。電動介護ベッドが備え付けで、家具などの持ち込みは冷蔵庫やテレビなども含めて自由にできる。ソファなどを置くスペースもあり、来客があってもゆとりを持って過ごせる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「浴室」等と大きな文字で表示する他、トイレ・浴室の内部にある扉にも「出口」「倉庫」等の表示を行っている。共用空間(廊下)、トイレ、浴室に自力で立ち上がり、歩行時の支えとして使用できる様、手すりを設置し安全にそして自立した生活が送れるよう工夫している。		